

窟太郎山(クッタラ湖外輪山)534m

山行日 2020年11月29日(日) 曇り時々晴

参加者 長沼

A班：藤木(晴)、藤木(た)、川村、森永、永宮、小笠原

B班：門馬(L)、渡邊、近藤、佐藤、津川、竹内、後藤

C班：宇佐美(L)、宇田、太田、八重樫、谷、笹山、

初冬を迎え、近郊の低山を歩くのはとても楽しみだ。11月15日に登った四方嶺・クッタラ湖コースに続いて、今回の山行コースからは、またどんな風景が広がっているのか、寒さを吹き飛ばし、さあ 歩こう！

7:30 岡志別公園 P 出発

7:50 登山口 P 着

8:10 登山口出発。前回登った四方嶺への登山口を通過し、アスファルト道を進む。

8:35 “メツプ越林道” 標識着

疎らな笹と枯れ葉の踏み跡の急登を登る。サクサク……ガサガサ……と踏みつける音が響く。その道のあちこちにタヌキとシカの多数のフン発見！

タヌキのフンは、黒く大きな塊状態。これは、タヌキ達の共同トイレとの事。タヌキ達は同じ場所に集まり、そこで情報交換しているのではないだろうか……

シカのフンは黒い球状でチョコボール状態だ。動物たちが歩きなれているこの道をかっ歩している様子を想像すると、なんだか愉快になってきた。

9:50 急登を登り終わると、眼下にいぶし銀の光をたたえたクッタラ湖が大きく広がっていた。さらに、右方向に進む。

眺望は変わり左にクッタラ湖、右に太平洋の海を見ながら湖に沿って半周するように頂上を目指す。途中明るく開けた場所にさしかかり、O嬢曰く“ここは、シカの社交場だね”。私にもシカ達が楽しそうに集会しているのが見えるようだった。

10:45 山頂着。『窟太郎山 534m』と書かれた白い小さな看板が出迎えてくれた。オロフレ山が冬の日射しを受けて白く輝いていた。

11:10 山頂出発(下山)

13:20 登山口着

葉をすっかり落とした山は、明るく、山全体を見せ、裸林が林立している。地面はすき間なく埋めつくされた木の葉でおおわれ、森の庭園のような静かな佇まいを見せてくれる。木々は年輪を重ねた中で空に向かい伸び、へし曲がり、ツルにからまれながら、それぞれ自己主張するように森の中にいる。帰り道、小雪舞い、もうまもなくこの森も白い雪におおわれる。

